

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

平成7年5月25日

気 象 庁

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

雲仙岳は、昨年後半から溶岩の噴出量が減少していたが、2月頃からはドームの成長とドーム周辺の地殻変動が停止した状態である。地震活動、火山ガス放出量も極めて低いレベルで推移している。また、火砕流は2月12日以降発生していない。

島原半島西部では、昨年秋頃から地殻変動はほぼ停止しており、深部からのマグマの供給も停滞しているものと思われる。普賢岳における過去1万5千年間の活動履歴から考えて、今回は噴出するマグマの大半が出た可能性がある。

これらの各種の観測データから判断してマグマの供給と噴火活動は、ほぼ停止状態にあると思われる。

しかしながら、一方では3月以降傾斜変動を伴う火山性微動が新たに認められるなど、地下の活動は低いレベルで継続している。溶岩ドーム形成の末期に水蒸気爆発の起きた例もあり、地震など外的要因でドームの一部が崩落する可能性も否定できず、これに伴う噴石や火砕流による災害が起こる可能性がある。

今後も火山活動の推移について注意深い監視が必要である。

なお、中小規模の崩落や土石流による二次的な災害は今後も発生すると思われることから、警戒が必要である。